二〇一八年一二月二八日

湖冴ゆる対岸の灯のまたたきて　隆松
股火鉢して一服す香具師かな　なつき
飛行雲寒の天空真二つ　隆松
ダミ声の手締め響くや酉の市　智恵子

二〇一八年一二月二七日

一村の眠りに落ちて星冴ゆる　宏虎
夫と肩並べて啜るのつぺい汁　もとこ
駅裏はシャッター街や冬ざるる　やよい
道連れのあれば楽しき枯野道　たか子

二〇一八年一二月二六日

トロ箱にふくれつ面の河豚糶らる　宏虎
落柿舎の主も斯くやと日向ぼこ　菜々
歳晩の町に高鳴る救急車　満天

二〇一八年一二月二五日

嘴を背に挿し眠る浮寝鳥　素秀
煤逃げの主婦らと見たるラドンの湯　なつき
乗り遅れ次のバスまで日向ぼこ　はく子
看板の骨だけ残る枯野かな　こすもす

二〇一八年一二月二四日

恙なき便りに安堵実南天　よう子
霜柱畝に残りし獣跡　智恵子
能舞台鳴らす踵の音寒し　明日香

二〇一八年一二月二三日

朝霜の虜となりし路駐かな　せいじ
あやす子のくしやみ浴びたる炬燵かな　なつき
蓋とれば忽ち香る柚子湯かな　やよい
シテ方の身じろぎもせず声冴ゆる　明日香
一句得て千転しをる柚子湯かな　うつぎ

二〇一八年一二月二二日

豊作のカボス代用冬至風呂　三刀
月冴えて一朶の雲も寄せつけず　菜々
数え日のおもちゃ病院混み合へり　なつき
診察を待ちゐる窓に風花す　素秀
摩天楼ビルの天辺霧纏ふ　ぽんこ

毎日句会みのる選・二〇一八年一二月三〇日